

【様式 2】

学校関係者評価書

学校名 佐賀県立牛津高等学校

1 学校関係者評価実施状況

(1) 学校関係者評価実施日

令和 7 年 2 月 2 0 日 (金)

(2) 資料 (評価の参考とした資料)

令和 6 年度学校評価結果

令和 6 年度学校評価アンケート結果

学校魅力化評価システムアンケート結果

2 評価

(1) 学校運営について

①目標の妥当性及び達成状況

成果指標を立てて、目標達成に向けて努力されていることがわかる。目標値もおおむね妥当であるが、数値で達成状況をとらえるのには難しい項目もある。志願者数の目標については過去のデータや受検生の動向などを分析し、より現実的で具体的な目標を設定したほうが良い。また、学科ごとの目標を立てることも考えてもよいのではないか。達成状況は、業務改善や特別支援教育の充実といった項目で高い達成度であり評価できる。

②学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

学校運営面においては、生徒、保護者、教職員、地域が一体となった運営が行われており望ましい状態だと考える。特に唯一無二の誇り高き学校づくりの取組は良好な状況である。しかし、この取組が志願者数の増加に連動できていないことは残念である。教職員の働き方改革において、昨年度よりも大幅に改善されているが、年休取得日数の状況については付与日数を考えると、まだ適切な状況とは言えない。

③改善方策の適切さ

どの項目においても改善に向けた取組はなされており、方策も適正と考えられる。目標を達成できなかった項目については、継続して改善に取り組むことが必要。情報発信について、ただ発信するだけでなく、外部に知ってもらうための方策と改善方法を検討すべきだと思われる。

(2) 教育活動について

①目標の妥当性及び達成状況

成果指標を立てて、目標達成に向けて努力されていることがわかる。目標もおおむね妥当である。達成状況は、アンケート結果からも生徒、保護者の満足度が高い結果が出ており一定の成果が見られる。本校は家庭科専門の高校であるが、基礎学力の向上（特に英語）は、今後の人生においても重要であり、授業改善や課題等の見直しなど一層の対策が必要。

②学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

適切に取組状況を把握し自己評価されており妥当と判断できる。しかし、一部の項目で具体的な取組状況がわかりにくいものがあった。学力向上に関して、目標未達であり、生徒の学力向上に向けた対策が必要と思われる。一方で起業家マインドや心の教育など学力以外の意欲向上や豊かな心を育む教育等については良い結果が表れており、今後も伸ばしてほしい。

③改善方策の適切さ

生徒の強み弱みを分析したうえで適切な対策が取られていると思われる。評価がBの項目に関して、次年度はAとなるように、新しい対策を検討する必要がある。

3 その他学校に対する意見や提言

- ・情報発信において、発信しただけでは、ターゲットに届いていなければ結果は出せない、これまで以上に生徒の意見を引き出し、教員もそれを受け入れていけばよいと思う。生徒が小中学生に向けて牛津高校の魅力や楽しさを発表したり、話したりできるとよい。
- ・学校の取組成果をもっと外部へ周知（広報活動）していただきたい。
- ・学校評価の際に、他校との比較があったが良いと感じた。
- ・生徒募集では受検前から牛津高校を意識させることができるので、中学1、2年生対象の学校説明会があってもいいと思う。
- ・学校評価結果のどの項目が学校運営なのか教育活動なのかわかりにくいと感じた。